

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念『和』を創り、その『和』の中に大きな3つの方針を立てて、認知症の高齢者が地域の中でその人らしく暮らし続けることができるように心掛けている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや毎日の日報提出の際などを利用し、運営方針や目指すべきものを日常的に話す機会を設けるよう努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通して、理念を理解して頂き、連携、協力してもらえように取り組んでいる。事業所の玄関に掲示し、家族等来訪者に常に目に付くようにしている。また、家族交流会で利用者・家族へ発信するなど、理念を理解してもらえように取り組んでいる。	○	地域の人々へ理念を発信・浸透してもらえようの方法を検討し、今後は、地域の人々と直接的に関わりを持てる機会作り、家族との時間を増やせるよう、努めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	散歩・外出時は、地域の人々へ元気よい挨拶につとめている。夏祭り・木工祭などの地域行事に積極的に参加し、事業所の存在、利用者、職員を知って頂けるようにしている。買い物はなじみの店を利用し、近所の方々に覚えて頂くようにしている。	○	理念の共有を含め、今後は地域住民の参加を含めた事業所内行事の企画をしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元市報やインターネットから地元行事などの情報収集を行った。地元敬老会にご利用者・ご家族が参加できるよう、敬老会運営者等と調整を行った。「大川木工まつり」「大川市民夏まつり」など地元行事に積極的に参加している。介護教室を開き、家族・地域の人々にも呼びかけを行い、地元の人々と交流することに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ご家族様や地域住民に向けた介護教室を開催し、腰痛予防や認知症について、認知症サポーター養成講座などを実施した。運営推進会議では、地域のネットワーク構成の話し合いを行っている。	○	認知症サポーター養成講座を定期的開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善項目として「地域とのつきあい」「家族等への報告」「災害対策」の3項目を挙げて、改善計画の進捗状況をユニットミーティング等で確認し、改善に取り組んだ。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、「改善計画シート」の評価を行い、そこでの意見をサービスの質の向上に努めている。会議に参加していない職員は内容を議事録にて確認している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護教室の中で「認知症サポーター養成講座」の講師を市職員に依頼して、運営を一緒に取り組んだ。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所に、地域権利擁護事業、成年後見制度のパンフレットなど、閲覧できるようにして、職員の知識向上に努めている。又、必要時には、関係者と話し合い、活用できる状態にしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを作成し、いつでも見れる所に配置している。また、虐待や拘束が考えられる場合は、職員間、管理者と相談をしている。	○	ストレスを職員が溜め込まないよう悩み等を気軽に相談できる風通しの良い職場環境の構築を図りたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	実施出来ている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	事業所内目に付く場所(廊下)に苦情等の相談窓口の案内ポスターを掲示している。契約時に苦情等窓口開示している。2ヶ月に1回程度、市からの生活相談員(2名)が来訪し、利用者との会話・交流をされている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	来訪の機会が少ない家族には最低月1回の状況報告を実施している。来訪時に、金銭出納帳の確認を家族にして頂いている。異動・担当変更など職員についての報告は随時行っている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族交流会を実施し、家族・職員との交流の場を設け、家族の意向を聞きやすい環境を少しずつ構築している。介護教室に、家族やその他地域の人々が参加し、職員・地域住民と話せる機会を設けた。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	随時、個人・または各ユニットの意見として、意見や提案を聞く機会を設けている。ミーティングなどで意見交換を行っている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の受診対応の際に、家族の都合等により受診が困難になった場合、家族・職員・管理者間ですぐに検討を行い、勤務調整・対応を行っている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時は、性別・年齢等関係なく、本人の人柄・やる気等を重視している。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所独自の理念において、人権の尊重を取り入れ、職員の意識向上に努めている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数にあわせた勉強会を、法人内で月に1度実施している。研修や講習会などの情報を常に提供し、勤務の調整を行い、参加できる環境を整えている。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修会において、法人内の他事業所との交流の機会を設けている。市内のグループホームの職員が集まって意見交換会を実施した。	○	法人内外の施設見学の機会を作りたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	仕事を一人で抱え込まずに、職員全体で報告・連絡・相談を通して、仕事を分担できるよう努めている。休憩場所が確保されている。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日常的な会話や業務日誌の提出時等に、個別に話し合いなどを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の段階で施設見学や面談などを行い、本人と直接会い機会を設け、受容的な態度で傾聴に努めている。できる限り、利用される前段階から、面談を行い、信頼関係の構築に努めている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の段階で施設見学や面談などを行い、本人と直接会い機会を設け、受容的な態度で傾聴に努めている。できる限り、利用される前段階から、面談を行い、信頼関係の構築に努めている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>インテーク時に、本人と家族が必要としている支援を見極め把握し、他サービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>徐々になじめるよう、ご利用者・ご家族には施設内を見学していただき、ご家族に説明、又相談しながら進めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>昔話や昔の知恵、地元行事や方言などを教えてもらったり、「任せて」と果物の皮むきを上手にされることがある。</p>		
30	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ケアカンファレンスに参加していただくことで、支援について一緒に考えていただく機会を設けている。必要に応じ電話などでご家族とはなしたりして関係作りに努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に、本人の近況報告を行い、グループホームでの生活を家族にも理解していただけるよう努めている。面会時やカンファレンスを通じ、一緒に本人を支えて行けるように声かけ・相談・話し合いを行い、関係を築いている。必要に応じ電話などで家族とはなしたりして関係作りに努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族等と協力しながら、行事参加や知人、友人などと関係が途切れないよう、本人・家族から情報収集を行い、可能な範囲で支援している。家族や身内以外の馴染みの方の把握が不十分である。	○	利用者やご家族、知人面会時などに、日常的な会話の中から情報収集を行いたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が同じテーブルに集い、会話を楽しめるよう支援している。『お茶ついでやろうか?』と利用者同士でお茶を注がれる場面がある。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に合わせ行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中で、希望や意向を把握できるように努めている。入居時やケアプラン更新時には、本人様・家族への希望・意向の確認に努めている。家族等から以前の暮らしぶりや趣味などの情報を得て、把握に努めている。本人・家族からの情報を元に、本人のペースにあった生活を支援している。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集をしている。知人やケアマネジャー、医療SWなどから、生活歴、なじみの暮らし・生活環境やサービス利用の経過などの情報収集をし、把握に努めている。アセスメントを元に利用者とのコミュニケーションを大切にしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カルテを活用し、一日の流れや心身状態について把握している。日常的に、スタッフ一人一人が利用者の過ごした方、心身状態、有する力などを観察し、カルテへ記載しながら、モニタリングなどで現状を総合的に把握するよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の介護計画の作成の為に課題に応じて、本人・家族・必要な関係者とカンファレンスを行い、それぞれに意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回モニタリングを行い、見直しを行っている。最低3ヶ月に1度の介護計画の見直しを行っているが、モニタリングで利用者の変化があり、検討課題が挙がった場合や現在のサービスで対応しきれない変化が生じた場合は本人・家族又は必要な関係者と話し合い、現状に応じた新たな計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日カルテに記載し、日常の変化や体調変化を早期に発見し、情報を共有している。申し送りやカンファレンス等の中でも、情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望に合わせ、ご家族と共に食事ができるよう個別に居室で食事ができるよう支援したり、宿泊室を使用し共に宿泊できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の消防に協力して頂き、防災訓練を実施している。また、2ヶ月に1度、運営推進会議を行っており、地域の民生委員や区長、老人会会長、市町村職員と連携・協力しながら、ご利用者を支援している。定期的に民生委員の方にも来訪して頂いている。	○	運営推進会議を通じて、地域と連携協力し、さらに地域に開かれたサービスとなるよう、具体的な地域との連携体制を作っていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前後の継続的なケアの確保。入居後の地域での多様な資源を活用した暮らしと、退居時の支援等、あらゆる段階で他サービス事業所と相互協力を図っている。	○	より本人の意向に沿えるようなサービスを提供できるよう、地域のケアマネジャーとも密に連絡・連携を取ってきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現段階では対応事例はないが、必要に合わせ対応できる体制をとっている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族からの訴え・状況・状態に応じて、前からなじみのかかりつけ医に受診してもらっている。また、かかりつけ医とは、報告・連絡・相談など、情報交換を随時行い、情報を共有している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療連携機関の医師と、報告・連絡・相談を行い、利用者の綿密な情報交換、情報共有を行うことで、利用者に対して適切な医療が提供できるよう関係を築いている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームの看護師や連携医療機関の看護師と随時報告・連絡・相談を行い、日常の健康状態を把握し、医療的見解からの助言を受けながらサービスの提供に努めている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された時、安心して過ごして頂くために、病院関係者との情報交換・連携に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族・スタッフ・主治医でケアカンファレンスや面談を行い、重度化した場合、終末期のあり方について話し合いながら、方針を共有するようにしている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化・終末期のあり方について、できるだけ早い段階で、利用者・家族を含め、状態に応じたサービス、重度化、終末期に適切なサービスが提供できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が住み替え時に、できるだけ心身の負担にならないよう、ケア関係者からの情報収集や、話し合いを行い、アセスメント把握に努めている。できるだけ、馴染みのものなどで環境を整え、なじみの人(家族、知人)にも面会していただくよう努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報類はスタッフルーム内のかぎ付きのロッカーに保管し、必要時のみ取り出すようにしている。スタッフルームに誰もいない時は、ドアを閉めている。トイレへ声かけする際は、利用者本人や周りの利用者へ配慮した声掛けをしている。	○	日常的なスタッフの申し送りや、情報交換時のコミュニケーションなど情報内容によっては話す場所を変えたり時間をずらすなど配慮していきたい。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	小さなことでも、本人への声かけに心掛けている。本人に納得していただける会話対応に努めている。日常着の選択等職員と一緒にやっている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランでの一日の流れに沿って、利用者のペースに合わせた支援をするように努めている。利用者の入居以前の情報収集をしたうえで、現状を観察し、利用者らしい生活スタイルの確立に努めている。声かけは行いつつ起床や臥床時間など本人に尋ねてから行っている。		食事の内容や時間なども本人ペースで行いたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎日着る服も利用者と話しながら選んでいる。理・美容は本人・家族の希望にあわせた店を利用して頂いている。身だしなみもその人らしくをモットーにできるだけ自己決定を元に支援している。2回/週の整容時間を設けて、耳周りや爪などの細かい整容を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の状態に合わせて、食事形態を検討し、食べやすいように提供している。選択メニューでお好みの食事を選んでいただいたり、誕生会や敬老会では、いつもと違った食事を楽しんでいただけるように努めている。また、利用者や職員が協力して食事の準備や後片付けを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	普段のおやつでは、利用者と話しながらおやつ作りを行っている。家族が持ってこられた嗜好物は、ご自分でタンスにしまい、好きな時に食べられている。食べ過ぎられる方や、嚥下が困難な方へは、利用者・家族と相談した上でお預かりして、利用者が食べたい時にお渡ししている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。場合によってはケアプランに誘導のタイミング、時間帯などを記載している。個別にあわせたタイミングで排泄の失敗を減らすように支援している。自己を尊重し、失敗がトラウマにならない声かけ、対応を心掛けている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	自己のペースで落ち着いて入浴して頂けるように努めている。本人に応じた入浴介助を行っている。	○	入浴を楽しみにされている方も多いので、時間を気にせず、ゆっくり入浴していただけるように努めていきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	中々眠れない利用者に対し、日中の歩行や運動などの活動を増やしたり、寝る際に音楽を流したりすることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ボール遊びやじゃんけんゲームなどのレクリエーションを行い、楽しまれている。本人に合った、楽しみごとや気晴らし、役割ができるよう、プランなどに盛り込み提供している。職員と掃除やゴミだしを行ったり、花壇に花を見に行ったりと気分転換が行えるように支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や力量に応じた金銭管理支援を行なっている。自己管理が困難な方に対しても、その代替方法を家族と相談し、定期的にその出納を報告。買い物の際は本人が金銭のやり取りが出来るよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望がある方は、時間を作っている。又、ユニット外や戸外の庭、近所の散歩道などへ出かけるよう、ケアプランでのサービス支援として行っているご利用者もいる。毎朝のゴミ捨てや散歩の時間を通じて外出機会を設けている。困難な場合は家族に相談することもある。	○	できるだけ急な本人の当日の外出希望などにも対応できるような体制を構築していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事計画表を作成し、季節に合わせた企画等を行っている。地元の夏祭りや木工まつりなどには、家族へ声かけを行い、一緒に外出できるよう支援を行っている。	○	利用者一人一人が行きたい場所などを把握(アセスメント)し、支援できるようにしていきたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望に応じて、電話支援や手紙の支援を行っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室でもデイルームでも、ゆっくり話ができる環境作りに努めている。訪問者へは、元気に挨拶するようにしている。玄関周りには季節に合わせた飾り、掲示物を行っている。廊下には毎月の行事予定や毎月発行の広報誌を掲示し、日常生活を知ってもらえるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルに基づいたケアを取り込んでいる。やむを得ず身体拘束をする場合、身体拘束記録を作成し、状態をこまやかに観察・記録して、少しでも早く身体拘束をしないケアに移行できるよう取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は朝開けて、夕方閉めるようにしている。『朝起きたら開け、寝る前には閉める。』普通の玄関として全ての職員が日中鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。自由な環境作りを意識しサービス提供に努めている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中帯はまめに見守りを行い、夜間帯は入居者様に応じて1～2時間毎の巡視を行っている。自室で過ごされている際も時々訪室し声かけを行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だから包丁やはさみをお渡ししないのではなく、注意が必要な物品として特定の保管場所で管理し、必要時はその都度お渡しして、見守りしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	アセスメントを行い、一人一人の状態に合わせた事故防止策を検討している。日常的に発生しているリスクについて、職員全員で共有し、事故防止およびサービス向上に対する意識を高める為に、『ヒヤリハット』の報告書を提出し、スタッフ全員で、リスク回避手段の情報共有をできるようにしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の対応についてマニュアルを確認している。防災訓練を通じて、緊急時の対応に備え、再確認を行っている。しかし、特に夜間の急変や事故発生に不安のある職員もいる。	○	応急手当についてミーティング(勉強会)などを行い、技術を身につけたい。防災訓練に参加できない職員も、報告書等を通して、緊急時対応の確認を行っていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に一度のミーティングで、防災・緊急時対応(マニュアル) 消火器・散水栓の使用の確認 避難誘導灯・スプリンクラーなど、防災機器の種類の把握・設置場所の確認の3つを、1つずつ行うようにしている。施設状況・電気系統・消火器・誘導灯の点検なども適時行っている。年に二度、当施設と連携病院との総合防災訓練を実施している。	○	運営推進会議を通し地域の人々にグループホームをもっと知ってもらえるようになりたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常的に家族に近況報告を行い、リスクが起り得る場合、職員・家族と検討を行い、話し合いを行っている。面会にあまりこられない家族には月一回電話にて近況報告を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化や異変に気付いた際は、当日のスタッフで速やかに情報を共有し、必要に応じてかかりつけ医からの助言も頂いている。報告・連絡・相談を中心に家族、医師、計画作成担当者、管理者と連携を取りながら速やかに対応を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時の医師・看護師・薬剤師からの説明や処方箋の確認だけでなく、辞書やインターネットなどから随時調べたりしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、排便サイクルを観察している。必要に応じ腹圧マッサージ、緩下剤も使用している。食事・水分・おやつなどで便通のよくなる工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個人の状態に合わせた口腔ケアの支援を行っている。寝たきりの方にはガーゼなどを利用し、口腔内の清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談しながら行っている。本人様に応じた状態での食事の提供(キザミ等)を行っている。水分においてはらくのみやトロミをつけての摂取支援を行ったり、利用者の嗜好にあわせた飲み物を用意するなどして、水分補給を促している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染者に対しては、「感染予防マニュアル」に基づき、適切な対応を行なっている。インフルエンザの予防接種などは、利用者(家族)の意向を確認しながら受けていただき、予防に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日使用する調理道具・食器等については毎晩消毒を実施し、台所はアルコール消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	郵便受け、表札など、木製で手作りしている。利用者の表札を飾り、花を置く等して家庭的な雰囲気を出せるよう、心掛けている。特別なことをするのではなく、自宅の玄関ということを意識している。また、明るく開放感のある雰囲気作りを心掛けている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室前にはのれんをおき、外から見えないようになっている。ダイルームや廊下には季節を感じられるような飾りつけを、利用者と一緒にしている。共有部には利用者と一緒に作った作品を飾っている。住み慣れた空間を基本に、Dルームにはたたみを配置したり、日めくりカレンダーやお花、写真を貼り出したりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長いすがあり、利用者同士で会話されていることもある。食事の席を考慮し、自身の席場所を設置したり、日中帯ソファーで過ごして頂く時間を設けるなどして取り組んでいる。ソファーやたたみの配置、廊下にはベンチを配置したりと、開放感。共同生活の場ではあるものの、各個人が思い思いに過ごせるよう工夫している。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームで一緒に作った飾り物を置いている。ご自宅に近い家具の配置で生活しやすい環境を整えている。できる限り、本人の意向に沿い、残存能力を生かせる部屋作りを心掛けている。使い慣れた、なじみのものを配置していただくことにより、居心地よく過ごせるように工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏場28度 冬場26度 目安に適宜エアコン使用している。換気時間を決めて取組み、状況に応じて、利用者へ声かけし換気を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の移動の妨げにならないように物の配置など環境整備に努めている。障害物を移動・取り除くなど、ゆとりある空間作りを心掛けている。居室・廊下・浴室には手すりがある。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人に分かりやすいように目印をつけるなどして、混乱や失敗を防げるようにしている。ご自分の部屋が分からない方は居室入り口にご自分の写真を貼ったり、トイレ表札をつける等の工夫をしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	当ユニットにはベランダはないが、時折1階周辺に散歩に行くこともあり、植物に触れていただき、楽しんでいただけるように努めている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない